

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第5783853号
(P5783853)

(45) 発行日 平成27年9月24日 (2015. 9. 24)

(24) 登録日 平成27年7月31日 (2015. 7. 31)

(51) Int. Cl.

F I

H O 5 B 33/12 (2006. 01)

H O 5 B 33/12 B

H O 1 L 51/50 (2006. 01)

H O 5 B 33/14 A

G O 9 F 9/30 (2006. 01)

H O 5 B 33/12 C

H O 1 L 27/32 (2006. 01)

G O 9 F 9/30 3 6 5

請求項の数 10 (全 13 頁)

(21) 出願番号 特願2011-188099 (P2011-188099)
 (22) 出願日 平成23年8月31日 (2011. 8. 31)
 (65) 公開番号 特開2013-51098 (P2013-51098A)
 (43) 公開日 平成25年3月14日 (2013. 3. 14)
 審査請求日 平成26年8月29日 (2014. 8. 29)

(73) 特許権者 000001007
 キヤノン株式会社
 東京都大田区下丸子3丁目30番2号
 (74) 代理人 100096828
 弁理士 渡辺 敬介
 (74) 代理人 100110870
 弁理士 山口 芳広
 (72) 発明者 ▲高▼谷 格
 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キ
 ヤノン株式会社内

審査官 濱野 隆

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 表示装置

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

青色を発する第1の有機EL素子と、前記第1の有機EL素子とはそれぞれ異なる色を発する第2および第3の有機EL素子を有し、前記第1、第2および第3の有機EL素子は、陽極と、陰極と、前記陽極と前記陰極との間にある発光層とを備えている表示装置であって、

前記第1の有機EL素子の第1の発光層は、前記第2および第3の有機EL素子に共通に形成されており、

前記第2の有機EL素子の第2の発光層および前記第3の有機EL素子の第3の発光層は、前記第1の発光層に接し且つ、前記第1の発光層よりも前記陰極側に形成されており

10

、前記第1の発光層は、ホスト材料と発光ドーパント材料とを含み、下記の式(1)及び(2)を満たすように構成されていることを特徴とする表示装置。

$$|LUMO_{D1}| > |LUMO_{H1}| \cdots (1)$$

$$|LUMO_{D1}| - |LUMO_{H1}| > |HOMO_{H1}| - |HOMO_{D1}| \cdots (2)$$

〔上記式中、 $LUMO_{H1}$ 、 $HOMO_{H1}$ はそれぞれ、前記第1の発光層に含まれる前記ホスト材料のLUMO準位エネルギー、HOMO準位エネルギーを表し、 $LUMO_{D1}$ 、 $HOMO_{D1}$ はそれぞれ、前記第1の発光層に含まれる前記発光ドーパント材料のLUMO準位エネルギー、HOMO準位エネルギーを表している。〕

【請求項 2】

20

前記第 1 の発光層は、下記の式 (3) を満たすように構成されていることを特徴とする請求項 1 に記載の表示装置。

$$| \text{HOMO}_{\text{D1}} | > | \text{HOMO}_{\text{H1}} | \cdots (3)$$

【請求項 3】

前記第 2 の発光層は、前記第 2 の発光層の HOMO 準位エネルギー HOMO_2 と前記 HOMO_{H1} が下記の式 (4) を満たすように構成されていることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の表示装置。

$$| \text{HOMO}_2 | < | \text{HOMO}_{\text{H1}} | \cdots (4)$$

【請求項 4】

前記第 2 の有機 EL 素子では、前記第 2 の発光層のみが発光することを特徴とする請求項 1 乃至 3 のいずれか 1 項に記載の表示装置。 10

【請求項 5】

前記第 1 の発光層の前記ドーパント材料は 10 質量 % 以下であることを特徴とする請求項 1 乃至 4 のいずれか 1 項に記載の表示装置。

【請求項 6】

前記第 3 の有機 EL 素子では、前記第 3 の発光層のみが発光することを特徴とする請求項 1 乃至 5 のいずれか 1 項に記載の表示装置。

【請求項 7】

前記第 3 の発光層は、前記第 3 の発光層の HOMO 準位エネルギー HOMO_3 と前記 HOMO_{H1} が下記の式 (5) を満たすように構成されていることを特徴とする請求項 1 乃至 6 のいずれか 1 項に記載の表示装置。 20

$$| \text{HOMO}_3 | < | \text{HOMO}_{\text{H1}} | \cdots (5)$$

【請求項 8】

前記第 2 の発光層は赤色を発光し、前記第 3 の発光層は緑色を発光することを特徴とする請求項 1 乃至 7 のいずれか 1 項に記載の表示装置。

【請求項 9】

前記第 1 の発光層の層厚は、20 nm であることを特徴とする請求項 1 乃至 8 のいずれか 1 項に記載の表示装置。

【請求項 10】

請求項 1 乃至 9 のいずれか 1 項に記載の表示装置と、撮像装置と、を備えた撮像装置。 30

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、有機 EL 素子を備えた表示装置に関する。

【背景技術】

【0002】

有機 EL (エレクトロルミネッセンス) 素子は、陽極と、有機化合物を含む発光層と、陰極と、が積層されて構成されている。そして、赤色、緑色、青色の三色の有機 EL 素子を用いた表示装置では、各色の発光層が、各色の画素形状に合わせたパターンニング用の金属マスクを用いて真空蒸着されている。 40

【0003】

近年、表示装置の高精細化に伴い、各色画素サイズは微小化し、その画素形状に合わせたパターンニング用の金属マスクも高精細用になっているため、表示装置の製造コストに占める金属マスクの製造及び維持管理が困難になっている。

【0004】

特許文献 1 では、発光効率の低い青色発光層を画素領域全面に形成し、赤色発光層及び緑色発光層を青色発光層よりも取り出し電極側に積層する技術が述べられている。そして、発光効率の低い青色発光層を画素領域全面に形成し、青色の画素面積を大きくすることにより、パターンニング用の金属マスクの使用を減らし、表示装置の寿命を改善することができるとしている。 50

【 0 0 0 5 】

この構成では、赤色及び緑色発光の有機 E L 素子において、赤色及び緑色発光層それぞれは、青色発光層上に積層して形成されているため、赤色及び緑色発光層のみを発光させる必要がある。しかし、赤色発光層や緑色発光層の構成によっては、赤色発光層、緑色発光層内を電子が通り抜けて、青色発光層まで電子が漏れ、青色発光層が発光してしまい、赤色発光層及び緑色発光層を効率よく発光させることが困難な場合がある。

【 0 0 0 6 】

また、特許文献 1 では、赤色発光層と青色発光層の間、及び緑色発光層と青色発光層の間に電子阻止層を設けてもよいことが開示されているが、この構成では素子の駆動電圧が上昇してしまう。

10

【 先行技術文献 】

【 特許文献 】

【 0 0 0 7 】

【 特許文献 1 】 特開 2 0 0 7 - 6 6 8 6 2 号公報

【 発明の概要 】

【 発明が解決しようとする課題 】

【 0 0 0 8 】

本発明は、異なる色を発する有機 E L 素子に共通に形成された発光層を有する表示装置において、電子阻止層を発光層間に設けずに、各有機 E L 素子を効率よく発光させることを課題とする。

20

【 課題を解決するための手段 】

【 0 0 0 9 】

本発明は、青色を発する第 1 の有機 E L 素子と、前記第 1 の有機 E L 素子とはそれぞれ異なる色を発する第 2 および第 3 の有機 E L 素子を有し、前記第 1、第 2 および第 3 の有機 E L 素子は、陽極と、陰極と、前記陽極と前記陰極との間にある発光層とを備えている表示装置であって、

前記第 1 の有機 E L 素子の第 1 の発光層は、前記第 2 および第 3 の有機 E L 素子に共通に形成されており、

前記第 2 の有機 E L 素子の第 2 の発光層および前記第 3 の有機 E L 素子の第 3 の発光層は、前記第 1 の発光層に接し且つ、前記第 1 の発光層よりも前記陰極側に形成されており

30

、前記第 1 の発光層は、ホスト材料と発光ドーパント材料とを含み、下記の式 (1) 及び (2) を満たすように構成されていることを特徴とする。

$$|LUMO_{D1}| > |LUMO_{H1}| \cdots (1)$$

$$|LUMO_{D1}| - |LUMO_{H1}| > |HOMO_{H1}| - |HOMO_{D1}| \cdots (2)$$

上記式中、 $LUMO_{H1}$ 、 $HOMO_{H1}$ はそれぞれ、前記第 1 の発光層に含まれる前記ホスト材料の $LUMO$ 準位エネルギー、 $HOMO$ 準位エネルギーを表し、 $LUMO_{D1}$ 、 $HOMO_{D1}$ はそれぞれ、前記第 1 の発光層に含まれる前記発光ドーパント材料の $LUMO$ 準位エネルギー、 $HOMO$ 準位エネルギーを表している。

【 発明の効果 】

40

【 0 0 1 0 】

本発明によれば、異なる色を発する有機 E L 素子に共通に形成された発光層を有する表示装置において、電子阻止層を発光層間に設けずに、各有機 E L 素子を効率よく発光させることができる。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 1 1 】

【 図 1 】 本発明の表示装置の一実施形態の構成を模式的に示す図である。

【 図 2 】 本発明の表示装置の青色発光、赤色発光、緑色発光の各有機 E L 素子の代表的なエネルギーバンド図である。

【 発明を実施するための形態 】

50

【 0 0 1 2 】

以下、本発明の表示装置について、実施形態を挙げて図面を参照して説明する。尚、本明細書で特に図示又は記載されない部分に関しては、当該技術分野の周知又は公知技術を適用する。また以下に説明する実施の形態は、発明の一つの実施形態であって、これらに限定されるものではない。

【 0 0 1 3 】

特に、以下の実施形態では、第1の色、第2の色、第3の色をそれぞれ青色、赤色、緑色としている。また、第1の有機EL素子、第2の有機EL素子、第3の有機EL素子をそれぞれ、青色の有機EL素子、赤色の有機EL素子、緑色の有機EL素子としている。また、第1の発光層、第2の発光層、第3の発光層をそれぞれ青色の発光層、赤色の発光層、緑色の発光層としている。しかし、本発明は、この構成に限られるものではない。

10

【 0 0 1 4 】

図1(a)は、本発明の表示装置の一実施形態の構成を模式的に示す斜視図である。本発明の表示装置は、有機EL素子を備える画素1を複数有している。そして、複数の画素1はマトリックス状に配置され、表示領域2を形成している。尚、画素とは、1つの有機EL素子の発光領域に対応した領域を意味している。本発明の表示装置では、画素1のそれぞれに1つの色の有機EL素子が配置された表示装置である。各有機EL素子は、赤色、緑色、青色のいずれかを発光する。また、これら3色の有機EL素子以外に、さらに、黄色、シアン、白色のいずれかを発する有機EL素子を有していてもよい。尚、本実施形態の表示装置には、発光色の異なる複数の画素(例えば赤色を発する画素、緑色を発する画素、及び青色を発する画素)からなる画素ユニットが複数配列されている。画素ユニットとは、各画素の混色によって所望の色の発光を可能とする最小の単位を示す。

20

【 0 0 1 5 】

図1(b)は、図1(a)のA-A'線における部分断面模式図である。各画素1は、基板10上に、陽極11と、正孔輸送層12と、有機化合物を含む発光層と、電子輸送層14と、陰極15と、を備える有機EL素子を有している。尚、3R、3G、3Bは、それぞれ赤色発光の有機EL素子、緑色発光の有機EL素子、青色発光の有機EL素子を表している。赤色、緑色、青色を発光する有機EL素子3R、3G、3Bは、それぞれ赤色発光層13R、緑色発光層13G、青色発光層13Bを有している。そして、青色発光層13Bは、赤色発光の有機EL素子3Rと緑色発光の有機EL素子3Gとにわたって形成されており、いわゆる青色発光層13Bはコモン発光層となっている。つまり、赤色発光の有機EL素子3Rと緑色発光の有機EL素子3Gそれぞれは、青色発光層13Bと同じ組成で且つ同じ膜厚の青色発光層13Bを有している。

30

【 0 0 1 6 】

また、赤色発光層13Rは、青色発光層13Bの陰極15側に、青色発光層13Bと接して配置されている。また、緑色発光層13Gは、青色発光層13Bの陰極15側に、青色発光層13Bと接して配置されている。つまり、赤色発光層13Rと青色発光層13Bの間、緑色発光層13Gと青色発光層13Bの間には電子阻止層が配置されていない構成である。

【 0 0 1 7 】

青色発光層13Bは、塗り分け用金属マスクを用いずに形成され、赤色発光層13R及び緑色発光層13Gは、塗り分け用金属マスクを用いて画素形状に形成される。このように、青色発光層13Bを塗り分け用金属マスクを用いずに形成することにより、全色で発光層を塗り分けるよりも、塗り分け用金属マスクの使用を減らすことができる。

40

【 0 0 1 8 】

尚、陽極11は、隣り合う画素(有機EL素子)の陽極11と分離されて形成されており、陰極15との異物によるショートを防ぐために、画素(より具体的には、陽極11)間に画素分離層20が設けられている。また、正孔輸送層12と電子輸送層14と陰極15は、図1(b)のように隣り合う画素と共通で形成されていてもよいし、画素毎にパターン化されて形成されていてもよい。

50

【 0 0 1 9 】

尚、本例においては、陽極 1 1 が反射電極であり、陰極 1 5 が透明な光出射側電極である。陽極 1 1 は、金属層と透明導電層の積層で用いてもよい。上記のような陽極 1 1 上には有機化合物からなる正孔輸送層を形成しても良い。また、電子輸送層 1 4 の上には、電子注入層を形成しても良い。

【 0 0 2 0 】

正孔輸送層にはアリアルアミン類など、従来から知られた材料を用いることができ、正孔注入層材料などの異なる材料を積層して正孔輸送層を形成しても良く、光り取り出し効率を高めるために色ごとに膜厚を塗り分けて、光学干渉を合わせても良い。

【 0 0 2 1 】

青色発光層 1 3 B よりも反射電極である陽極 1 1 側に赤色発光層 1 3 R 及び緑色発光層 1 3 G を積層しても、塗り分け用金属マスクの使用を減らすことができるが、光学干渉を合わせる上で好ましくない。よって、本発明においては、赤色発光層 1 3 R 及び緑色発光層 1 3 G は青色発光層 1 3 B よりも光出射側電極である陰極 1 5 側に設ける。

【 0 0 2 2 】

尚、正孔輸送層 1 2、発光層 1 3 R、1 3 B、1 3 G、電子輸送層 1 4、さらに必要に応じて用いられる正孔注入層、電子注入層を合わせた積層体を有機化合物層という。

【 0 0 2 3 】

上述のように本発明は、陽極 1 1、発光層 1 3 R、1 3 G、1 3 B を含む有機化合物層、陰極 1 5 の順に積層した赤色、緑色、青色の三色の有機 E L 素子 3 R、3 G、3 B からなる表示装置である。そして青色発光層 1 3 B は画素領域全面に形成され、赤色及び緑色発光層 1 3 R、1 3 G は青色発光層 1 3 B に接して陰極 1 5 側に形成される。

【 0 0 2 4 】

そして、積層された 2 つの発光層 1 3 の間には電子阻止層が配置されていない構成でも、赤色の有機 E L 素子 3 R、青色の有機 E L 素子 3 B を効率よく発光させるために、青色発光層 1 3 B の構成を工夫している。つまり、青色発光層 1 3 B はホスト材料と発光ドーパント材料とを含み、下記の式 (1) 及び (2) を満たすように構成されている。

$$|LUMO_{D1}| > |LUMO_{H1}| \cdots (1)$$

$$|LUMO_{D1}| - |LUMO_{H1}| > |HOMO_{H1}| - |HOMO_{D1}| \cdots (2)$$

【 0 0 2 5 】

ここで、 $LUMO_{H1}$ 、 $HOMO_{H1}$ はそれぞれ、青色発光層 1 3 B に含まれるホスト材料の $LUMO$ (最低空軌道) 準位エネルギー、 $HOMO$ (最高被占軌道) 準位エネルギーを表している。また、 $LUMO_{D1}$ 、 $HOMO_{D1}$ はそれぞれ、青色発光層 1 3 B に含まれる発光ドーパント材料の $LUMO$ 準位エネルギー、 $HOMO$ 準位エネルギーを表している。

【 0 0 2 6 】

一般に青色発光層に含まれる発光ドーパント材料は 10 質量%以上となると、濃度消光と呼ばれる発光効率の低下が起きるため、本発明では青色発光層 1 3 B の発光ドーパントは 10 質量%以下で含有される。

【 0 0 2 7 】

図 2 (a) に青色発光の有機 E L 素子 3 B のエネルギーバンド図を示すが、式 (1) 及び (2) を満たす青色発光層 1 3 B に電子が注入された場合には、電子は発光ドーパント材料の $LUMO$ 準位にトラップされる。発光ドーパント材料は青色発光層 1 3 B の全質量の 10 % 以下であるため、電子は伝導しにくくなる。

【 0 0 2 8 】

また、正孔が注入された場合には、正孔はホスト材料の $HOMO$ 準位に注入され、ホスト材料は青色発光層 1 3 B の体積の最も多くの部分を占めるため、この準位を伝導する。このため、青色発光層 1 3 B は電子よりも正孔が伝導しやすい正孔輸送性 (電子トラップ性) となる。

【 0 0 2 9 】

尚、上記式 (2) は、 $|HOMO_{H1}| > |HOMO_{D1}|$ の関係でもよいことを含んでお

10

20

30

40

50

り、この場合、正孔は発光ドーパント材料のHOMO準位にトラップされやすくなる。しかし、上記式(2)は、発光ドーパント材料が電子をトラップする強さを表すエネルギー差 $|LUMO_{D1}| - |LUMO_{H1}|$ の方が正孔をトラップする強さを表すエネルギー差 $|HOMO_{H1}| - |HOMO_{D1}|$ よりも大きいことを表している。このため、青色発光層13B内では、電子は伝導しにくく正孔が移動しやすくなり、正孔輸送性(電子トラップ性)なる。また、青色発光層13Bは、 $|HOMO_{D1}| > |HOMO_{H1}|$ を満たすように構成されることが望ましく、この構成であればより正孔が伝導しやすくなる。つまり、下記の式(3)を満たすことがより好ましい。

$$|HOMO_{D1}| > |HOMO_{H1}| > |LUMO_{D1}| > |LUMO_{H1}| \cdots (3)$$

【0030】

10

青色発光層13Bのホスト材料としては、ピレン誘導体等が好適に用いられ、発光ドーパント材料としてはフルオランテン誘導体等が好適に用いられる。

【0031】

図2(b)、(c)に赤色発光、緑色発光のそれぞれの有機EL素子3R, 3Gの代表的なエネルギーバンド図を示す。図2(b)、(c)は好ましいエネルギーバンド構造であるが、赤色及び緑色発光層13R, 13Gのエネルギーバンド構造は必ずしも限定されるものではない。

【0032】

式(1)及び(2)、さらには式(3)を満たす正孔輸送性の青色発光層13Bに接し、陰極15側に赤色もしくは緑色発光層13R, 13Gを積層した場合、正孔が青色発光層13Bを通り抜けやすくなる。そのため、赤色発光及び緑色発光の有機EL素子3R, 3Gの電圧を上げずに、青色発光層13Bの発光を抑え、赤色及び緑色発光層13R, 13Gのみを発光させることができる。

20

【0033】

また、赤色及び緑色発光の有機EL素子3R, 3Gにおいて青色発光層13Bの発光を抑えることができるため、電子阻止層を用いる必要がなく、青色発光の有機EL素子3Bにおいても、電子注入が抑えられず、電圧の上昇を招かない。また、青色発光層13Bへの電子注入を阻止しないため、青色発光層13Bでの再結合確率が向上し、正孔が青色発光層13Bを通り抜けて効率が低下する問題も発生しない。

【0034】

30

さらに、赤色発光層13RのHOMO準位エネルギー $HOMO_2$ と前記 $HOMO_{H1}$ が

$$|HOMO_2| < |HOMO_{H1}| \cdots (4)$$

を満たし、緑色発光層13GのHOMO準位エネルギー $HOMO_3$ と前記 $HOMO_{H1}$ が

$$|HOMO_3| < |HOMO_{H1}| \cdots (5)$$

を満たすように、赤色発光層13R、緑色発光層13Gが構成されていることが好ましい。

【0035】

ここで、上記 $HOMO_2$ ($HOMO_3$)は、赤色発光層13R(緑色発光層13G)のHOMO準位エネルギーとは、赤色発光層13R(緑色発光層13G)が発光材料のみからなる場合は、その発光材料のHOMO準位エネルギーのことである。また、赤色発光層13R(緑色発光層13G)がホスト材料と発光ドーパント材料とを含む場合は、上記 $HOMO_2$ ($HOMO_3$)はホスト材料、発光ドーパント材料のいずれのHOMO準位エネルギーでも良い。これらが青色発光層13Bのホスト材料のHOMO準位よりも浅い準位であることにより、青色発光層13Bを通り抜けた正孔は、赤色及び緑色発光層13R, 13Gに注入されやすくなる。

40

【0036】

上記式(4)及び式(5)を満たすことにより、青色発光層13Bを通り抜けた正孔は、赤色及び緑色発光層13R, 13Gに注入されやすくなる。よって、より青色発光層13Bの発光を抑え、赤色及び緑色発光層13R, 13Gのみを発光させる効果があり好ましい。

50

【 0 0 3 7 】

さらに、赤色及び緑色の有機 E L 素子 3 R , 3 G に関しては、赤色及び緑色発光層 1 3 R , 1 3 G から青色発光層 1 3 B に電子が注入されにくい構成であることがより好ましい。例えば、赤色及び緑色発光層 1 3 R , 1 3 G と青色発光層 1 3 B との間に電子注入障壁が形成されるように各発光層を構成することが望ましい。

【 0 0 3 8 】

上記に述べた構成により、本発明は、塗り分け用マスクの使用を減らすため青色発光層 1 3 B を画素領域全面に形成した場合でも、有機 E L 素子への印加電圧を上げずに、青色発光の有機 E L 素子の発光効率が良い表示装置を提供することができる。

【 0 0 3 9 】

尚、本発明で定義する H O M O は最高被占軌道のことであり、その準位エネルギーは大気中光電子分光法 (A C - 2 、 理研機器製) を用いて測定した。また、 L U M O は最低空軌道であり、 L U M O 準位エネルギーは、上記の方法で測定した H O M O 準位エネルギーの値から紫外・可視分光法 (U V / V I S V - 5 6 0 、 日本分光製) を用いて測定した吸収スペクトルの吸収端から求めたバンドギャップを引いて算出した。

【 0 0 4 0 】

また、前記式 (1) 乃至 (5) に示したように、各式における H O M O 、 L U M O の準位エネルギーの大小関係は、その絶対値によって規定する。

【 0 0 4 1 】

本実施形態では、コモン発光層 (第 1 発光層) として青色発光層 1 3 B 、第 2 発光層として赤色発光層 1 3 R を例に挙げたが、特にこれに限定されるものではない。コモン発光層として、緑色発光層 1 3 G や赤色発光層 1 3 R などの他の色の発光層を適用することもできる。

【 0 0 4 2 】

本実施形態は、基板 1 0 側から陽極 1 1 、正孔輸送層 1 2 、発光層、電子輸送層 1 4 、陰極 1 5 の順で積層されているが、逆の構成、つまり、基板 1 0 側から陰極 1 5 、電子輸送層 1 4 、発光層、正孔輸送層 1 2 、陽極 1 1 の順で積層されていてもよい。

【 0 0 4 3 】

また、本発明の表示装置は、基板 1 0 側から有機 E L 素子の光が出射されるボトムエミッション型の表示装置でもいいし、基板 1 0 とは反対側から有機 E L 素子の光が出射されるトップエミッション型の表示装置であってもよい。

【 0 0 4 4 】

本発明の表示装置としては、テレビ受像機、パーソナルコンピュータの表示部に用いられる。他には、デジタルカメラやデジタルビデオカメラなどの撮像装置の表示部や電子ビューファインダに用いられてもよい。撮像装置は、撮像するための撮像光学系や C M O S センサなどの撮像素子をさらに有している。

【 0 0 4 5 】

また、本実施形態の表示装置は、携帯電話の表示部、携帯ゲーム機の表示部等に用いられてもよいし、さらには、携帯音楽再生装置の表示部、携帯情報端末 (P D A) の表示部、カーナビゲーションシステムの表示部に用いられてもよい。

【 実施例 】

【 0 0 4 6 】

以下、本発明の実施例について説明するが、実施例に用いた材料や素子構成は、好ましい例であって、これに限定されるものではない。

【 0 0 4 7 】

(実施例 1)

図 1 (b) に示す構成にさらに、電子輸送層 1 4 と陰極 1 5 との間に電子注入層を設けた構成の表示装置を作製した。

【 0 0 4 8 】

ガラス基板上に、低温ポリシリコン T F T で画素回路を形成し、その上に S i N からな

10

20

30

40

50

る層間絶縁膜とアクリル樹脂からなる平坦化膜を、この順番で形成して、図1(b)に示す基板10を作製した。次に、基板10上に、金属層として銀(膜厚200nm)、透明導電層としてIZO(膜厚20nm)を積層した陽極11を形成し、UV/オゾン洗浄を施した。

【0049】

続いて、上記電極付の基板を真空蒸着装置(アルバック社製)に取り付け、 1.33×10^{-4} Paまで排気した。その後、陽極11上に塗り分け用金属マスクを用いずにN,N'- α -ジナフチルベンジジンを厚さ20nmで成膜し、正孔輸送層12を形成した。

【0050】

次に青色発光層13Bのホスト材料として下記構造式(I)で示されるピレン誘導体を、発光ドーパント材料として下記構造式(II)で示されるフルオランテン誘導体を用い、厚さ20nmの青色発光層13Bを形成した。発光ドーパント材料は2体積%の割合で含有させた。

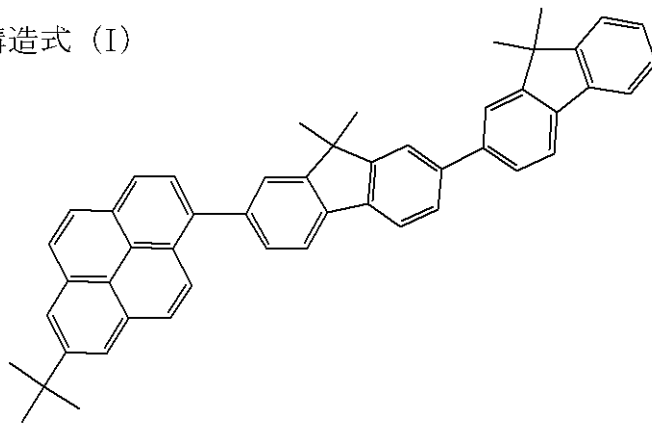
【0051】

上記ピレン誘導体は $|LUMO_{H1}| = 2.67 \text{ eV}$ 、 $|HOMO_{H1}| = 5.61 \text{ eV}$ であり、フルオランテン誘導体は $|LUMO_{D1}| = 3.06 \text{ eV}$ 、 $|HOMO_{D1}| = 5.85 \text{ eV}$ で、本発明に係る前記式(1)乃至(3)の関係を満たしている。

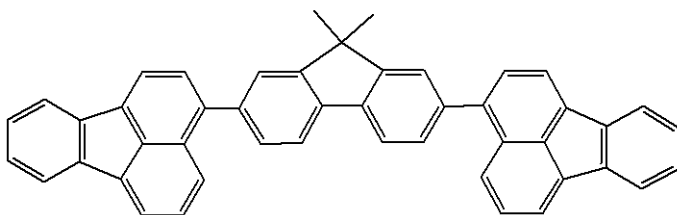
【0052】

【化1】

構造式(I)



構造式(II)



【0053】

次に、青色発光層13Bの上に、塗り分け用金属マスクを用いて、赤色発光の有機EL素子に該当する領域のみ、厚さ50nmの赤色発光層13Rを形成した。赤色発光層13Rのホスト材料としては、下記構造式(III)で示されるフルオレン誘導体を、発光ドーパント材料として下記構造式(IV)で示されるIr錯体を用い、発光ドーパント材料を10体積%の割合で含有させた。

【0054】

上記発光ドーパント材料として用いたIr錯体は、 $|LUMO| = 2.47 \text{ eV}$ 、 $|HOMO| = 5.13 \text{ eV}$ であり、ホスト材料として用いたフルオレン誘導体は、 $|LUMO| = 2.75 \text{ eV}$ 、 $|HOMO| = 5.77 \text{ eV}$ である。つまり、 $|HOMO_2|$ は発

10

20

30

40

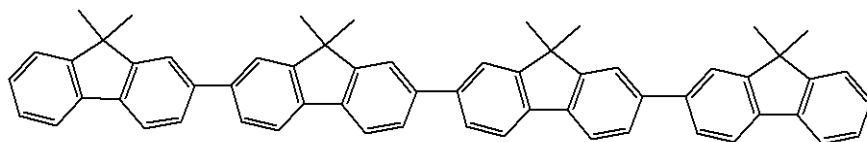
50

光ドーパント材料のHOMO準位エネルギーである5.13 eVである。よって、発光ドーパント材料のIr錯体と、青色発光層13Bのホスト材料として用いたピレン誘導体とは、本発明に係る式(4)の関係を満たしている。

【0055】

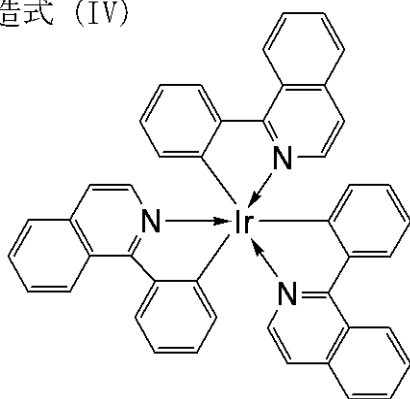
【化2】

構造式(III)



10

構造式(IV)



20

【0056】

次に、青色発光層13Bの上に、塗り分け用金属マスクを用いて、緑色発光の有機EL素子に該当する領域のみ、厚さ20 nmの緑色発光層13Gを形成した。緑色発光層13Gのホスト材料としては、下記構造式(V)で示されるピレン誘導体を、発光ドーパント材料としては、下記構造式(VI)で示されるアリールアミン誘導体を用い、発光ドーパント材料は10体積%の割合で含有させた。

30

【0057】

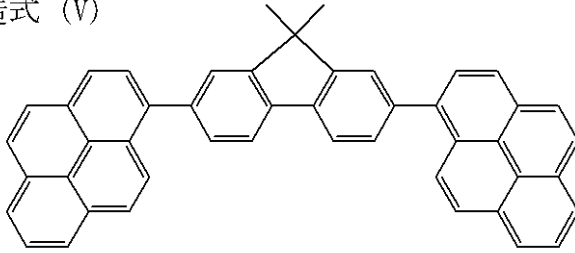
上記発光ドーパント材料として用いたアリールアミン誘導体は、 $|LUMO| = 3.01$ eV、 $|HOMO| = 5.51$ eVであり、ホスト材料として用いたピレン誘導体は、 $|LUMO| = 2.78$ eV、 $|HOMO| = 5.72$ eVである。つまり、 $|HOMO_3|$ は発光ドーパント材料のHOMO準位エネルギーである5.51 eVである。よって、発光ドーパント材料のアリールアミン誘導体と、青色発光層13Bのホスト材料として用いたピレン誘導体とは、本発明に係る式(3)の関係を満たしている。

【0058】

40

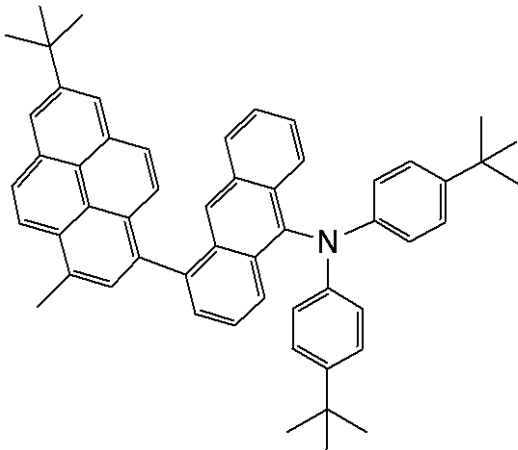
【化 3】

構造式 (V)



10

構造式 (VI)



20

【 0 0 5 9 】

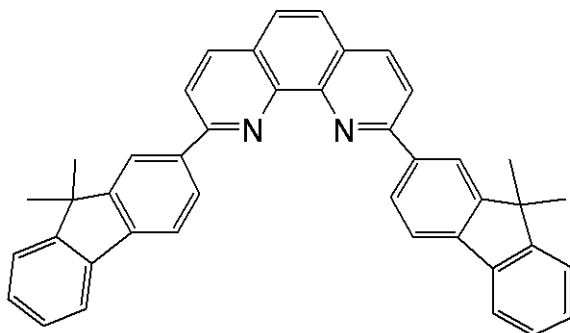
次に電子輸送層 14 として、下記構造式 (VII) で示される、フェナントロリン誘導体を 10 nm の膜厚で成膜した。さらに、該電子輸送層 14 の上に、炭酸セシウム (3 体積%) と、上記フェナントロリン誘導体の共蒸着膜を 40 nm の膜厚で成膜し、電子注入層 (不図示) とした。

【 0 0 6 0 】

30

【化 4】

構造式 (VII)



40

【 0 0 6 1 】

続いて、電子注入層まで成膜した基板を、スパッタ装置 (アルバック社製) へ真空中を搬送し、前記電子注入層上にインジウム錫酸化物をスパッタ法にて厚さ 30 nm で成膜し、陰極 15 を形成した。

【 0 0 6 2 】

その後、基板をグローブボックスに移し、窒素雰囲気中で乾燥剤を入れたガラスキャップ (不図示) により封止し、表示装置を作製した。

【 0 0 6 3 】

50

上記手順で得られた表示装置の各色の発光を評価したところ、各色とも低電圧で十分な発光が得られ、また、赤色発光、緑色発光において青色発光は見られなかった。

【 0 0 6 4 】

(比較例 1)

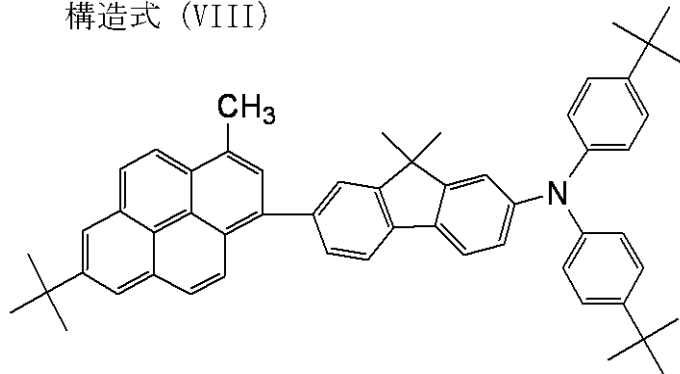
実施例 1 の青色発光層 1 3 B のホスト材料として用いたピレン誘導体に、発光ドーパント材料として下記構造式 (V I I I) で示される、アリールアミン誘導体を 2 体積 % の割合で含有させ、厚さ 2 0 n m の青色発光層 1 3 B を形成した。これ以外は実施例 1 と同様の方法で表示装置を作製した。この場合、係るアリールアミン誘導体は、 $|LUMO_{D1}| = 2.42 \text{ eV}$ 、 $|HOMO_{D1}| = 5.29 \text{ eV}$ であり、ピレン誘導体とアリールアミン誘導体とは本発明に係る前記式 (1) の関係を満たさない。

10

【 0 0 6 5 】

【化 5】

構造式 (VIII)



20

【 0 0 6 6 】

本例の表示装置の赤色及び緑色発光を評価したところ、青色の発光が見られ、実施例 1 の表示装置の赤色及び緑色発光に比較して効率の低い素子となった。これは、本例の表示装置が、本発明に係る前記式 (1) の関係を満たさないため、青色発光層 1 3 B の正孔輸送性が低く、赤色発光層 1 3 R 及び緑色発光層 1 3 G への正孔注入が十分でなかったためと考えられる。

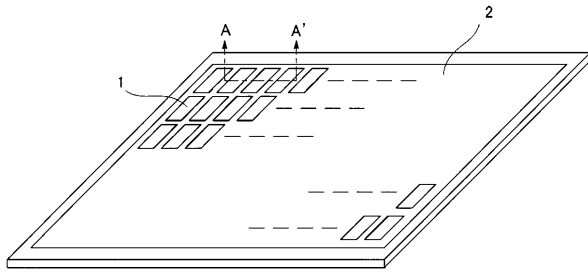
【符号の説明】

【 0 0 6 7 】

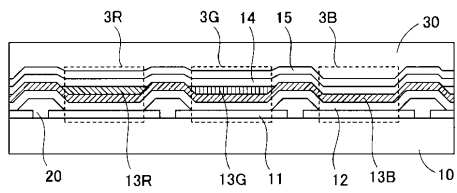
3 R , 3 G , 3 B : 有機 E L 素子、1 1 : 陽極、1 3 R , 1 3 G , 1 3 B : 発光層、1 5 : 陰極

30

【図 1】

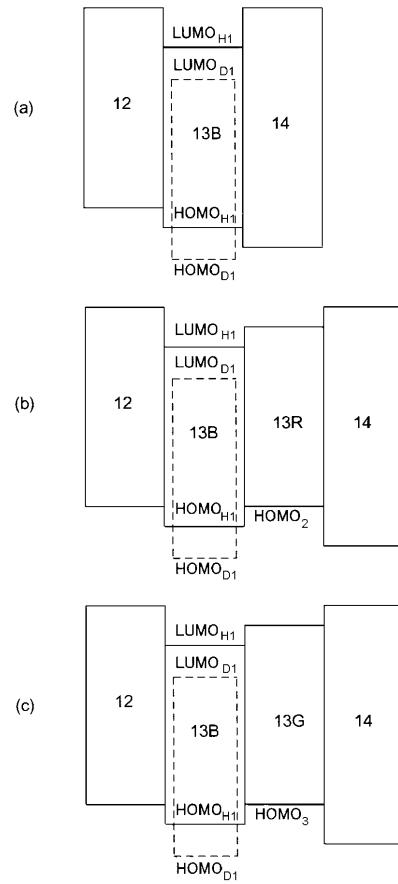


(a)



(b)

【図 2】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開 2006-324233 (JP, A)
特開 2008-300270 (JP, A)
特開 2005-100921 (JP, A)
国際公開第 2011/030450 (WO, A1)
特開 2010-272353 (JP, A)
米国特許出願公開第 2010/0090241 (US, A1)
特開 2007-299729 (JP, A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
H05B 33/12
G09F 9/30
H01L 27/32
H01L 51/50

专利名称(译)	表示装置		
公开(公告)号	JP5783853B2	公开(公告)日	2015-09-24
申请号	JP2011188099	申请日	2011-08-31
[标]申请(专利权)人(译)	佳能株式会社		
申请(专利权)人(译)	佳能公司		
当前申请(专利权)人(译)	佳能公司		
[标]发明人	高谷 格		
发明人	▲高▼谷 格		
IPC分类号	H05B33/12 H01L51/50 G09F9/30 H01L27/32		
CPC分类号	H01L27/3211 H01L51/504 H01L2251/552		
FI分类号	H05B33/12.B H05B33/14.A H05B33/12.C G09F9/30.365 H01L27/32		
F-TERM分类号	3K107/AA01 3K107/BB01 3K107/CC04 3K107/CC06 3K107/CC12 3K107/DD51 3K107/DD53 3K107/DD68 3K107/DD69 3K107/FF19 5C094/AA10 5C094/BA12 5C094/BA27 5C094/CA24 5C094/DA13 5C094/EA04 5C094/FA01 5C094/FA02 5C094/FB01 5C094/JA01		
代理人(译)	渡边 圭佑 山口 芳広		
审查员(译)	滨野 隆		
其他公开文献	JP2013051098A JP2013051098A5		
外部链接	Espacenet		

摘要(译)

要解决的问题：使用于发出不同颜色的光的各个有机EL元件在包括有机EL元件共同形成的发光层的显示装置中有效地发光，而不在发光之间提供电子阻挡层解决方案：第一有机EL元件3B的第一发光层13B共同形成用于第二有机EL元件3R。第二有机EL元件3R的第二发光层13R布置在阴极15侧，以与第一发光层13B接触。第一发光层13B是电子俘获发光层。

(21) 出願番号	特願2011-188099 (P2011-188099)	(73) 特許権者	00001007
(22) 出願日	平成23年8月31日 (2011. 8. 31)		キヤノン株式会社
(65) 公開番号	特開2013-51098 (P2013-51098A)		東京都大田区下丸子3丁目30番2号
(43) 公開日	平成25年3月14日 (2013. 3. 14)	(74) 代理人	100096828
審査請求日	平成26年8月29日 (2014. 8. 29)		弁理士 渡辺 敬介
		(74) 代理人	100110870
			弁理士 山口 芳広
		(72) 発明者	▲高▼谷 格
			東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社内
			審査官 濱野 隆

最終頁に続く